
朝青龍にごはんとライスをトッピングしてみた

三代渡吉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

朝青龍にごはんとライスをトッピングしてみた

【Nコード】

N3435F

【作者名】

三代渡吉

【あらすじ】

ごはんライス先生300本おめでとう！というわけで朝青龍にごはんとライスをトッピングしてみた。

弁当屋でごはんをライスを買った俺は、帰りに偶然モンゴルへ帰ろうとしていた朝青龍と出会った。

感動だ。俺は朝青龍のちよつとツンとした口元が大好きだったからだ。

嬉しさのあまり、俺は手元にあったごはんをライスで朝青龍にトッピングしてみたくなった。

別に食べるつもりはない。俺はナマモノ食べられんし。

俺はこっそり近づいて、彼の背後からごはんをライスでトッピングした。

おお、美しい、やはり力士に白米は合いますね。

「なんだコノ野郎」

朝青龍がこっちを睨んでいる。おお、そうだよその口。素敵ですよお朝青龍う！

「殺すぞこの野郎！」

俺は朝青龍に叩かれた。

彼のあまりにも力が強すぎて、鼻の骨がグキツと折れた。

そりゃもう、痛い。

流石に驚いた朝青龍は、顔を真っ青にしてムンクみたいな顔をした。

でも吹っ切れたのか、さらに朝青龍は俺のことを叩いてきた。ウヒヤヒヤと笑いながらどんどん叩いてくる。

パーン。パーン。ペシーン。

ごはん粒と俺の耳が舞う。耳は叩かれたショックで飛んだものだ。これは、痛い。痛くてたまらない。意識が飛びそうだ。

パーン。パーン。ブスッ。

朝青龍の猛攻は止まらない。最後のブスッは目潰しの音だ。左目もぎ取られ、地面にポトツと落ちた。

すげえ痛い。もういつそ俺を殺してくれ。

パーン。パーン。パーン。パーン。パーン。

顔が原型を留めなくなった頃、俺は後ろから誰かに突き飛ばされた。マスコミの人だった。

「八百長ですか？ 八百長ですか？」

目をキラキラさせながら、マスコミのお姉さんは朝青龍にマイクを向けている。

それを皮切りに、さらに後ろから東京ドームを埋め尽くすほどのマスコミが現れて、朝青龍にマイクを向けた。

俺は、数え切れないほどの人に踏み潰された。報道の車にも轢かれた。

左手が吹き飛び、内臓が破裂したのを感じ、俺は「痛い」と抗議の声をあげた。でもまた轢かれた。

「八百長ですか？ 八百長ですか？」

『八百長ですか？ 八百長ですか？』

マスコミの人が斉唱するように質問した。

「このごはんが報酬ですか？」

「このライスが報酬ですか？」

あまりの質問攻めに、朝青龍は嫌になって走り出した。

そして幼稚園バスをジャックすると、そのままどこかへ言ってしまった。

たぶんそれでモンゴルに帰ったんだろう。

ところで、俺の命はもう長くない。どうせなら最後に何か食べて死にたい。

そうだ、さっき飛び散ったごはんとライスがある。せめてそれを食べて死のう。

……ごはんとライス、どっちを食べて死のうか。

こんな時に優柔不断な人間性が出たことを、俺は後悔しながら死んでいった。

朝起きると、俺は機械仕掛けの朝青龍になっていた。

手術台の周りには、相撲協会の人達がニコニコと笑っていた。

「今日から君は朝青龍だ」

「コロスゾコノヤロウ」

俺は言葉を返した。相撲協会から拍手が漏れる。

「みなさん。このサイボーグメカ朝青龍で、日本の相撲界を立て直しましょう！」

おー！ という掛け声が、手術室に響き渡った。

俺はそれから、八百長試合で勝ちまくって冬場所を優勝で締めくくった。

こんなメカメカしい身体でも、誰も俺がニセモノだと気づかない。まったくちよいもんだ。

さて、そろそろエネルギー補給の時間だ。

俺のエネルギーは、ほんと、ライスと、そして大麻だ。

(後書き)

次は福田元首相をカレーにトッピングしたい、何はともあれごはんライス先生おめでとうございます！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3435f/>

朝青龍にごはんとライスをトッピングしてみた

2010年10月15日08時08分発行